

## はじめに

平成28年4月に熊本地震が発生し、震災及び震災関連で亡くなられた方や負傷された方、さらに6月に起きた大雨による二次災害で亡くなられた方々にご冥福をお祈りするとともに、お見舞い申し上げます。

支援では、全国から多くのボランティアの方や各自治体、警察、自衛隊及び消防署等多くの方々の支援活動により、少しずつではありますが、着実に復旧しております。今後は復興に向けた取組みを行っていかねばなりません。

当研究所においても、3階建の建物には大きな被害はありませんでしたが、空調機（加湿）器に通水しているパイプが破損したため全館に水漏れが発生しました。原因究明のため全て給水を停止させ1週間後には、平常の検査体制に戻ることができました。また、振動や水濡れによる精密機器の一部に不具合が発生いたしましたが、どうにか現状の検査体制に戻ることができました。

なお、避難所等における感染症や食中毒の発生はあったものの、大規模な発生はありませんでした。

今回、熊本地震を経験し、思い感じたことは、一人ひとりが何をしなければいけないかを痛感したことでした。今回の地震発生は、前震・本震ともに広範囲に発生し、県民の殆どが、被災しており、同様に全所員も被災し、その直後から避難民となりました。

日頃、避難や初期消火訓練はしますが、災害発生と同時に、身の安全を確保しつつ、それぞれの職員の役割は明確になっておらず対応が必ずしも円滑ではありませんでした。このことは避難等訓練も必要ですが、地震の際、職員の役割分担が重要で、その役割に応じた訓練が必要であることに気づきました。

今年は8月、ブラジルにおいて、オリンピック等が開催されました。今後、感染症の輸入症例の発生に危惧しているところですが、海外渡航者のジカ熱疑似患者の検査依頼が保健所を通じ医療機関から検体の搬入が 있습니다。感染症（健康被害）の拡大を最小限に抑えるため、中核的試験研究機関として、迅速・的確な試験検査を継続していかねばならないと思っています。これらの課題の解決に必要な科学的知見を提供し、健康で安心して暮らせる環境づくりに貢献するため日々精進を重ねながら、試験検査及び調査研究の推進と人材の育成に努めて参る所存です。

この所報は、平成27年度の研究成果を取りまとめたもので、職員が通常業務としての試験検査を行っている中から、課題を捉え、研究テーマとして発展させて取り組んだものです。御高覧いただき忌憚のない御意見をお寄せいただければ幸いです。

平成29年1月

熊本県保健環境科学研究所長 市田 弘美